

京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画）※の進捗状況等

※以下「計画」と表記

1 全体概要

一部事業においては、令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が見られるものの、全体としてはコロナ前の取組の形へ戻ってきているものが多く、次のような状況を鑑みても、**計画は概ね順調に進捗**しているものと考えられる。

- ・ 不妊に係る支援の充実、生活困窮者に対する自立相談支援及び医療的ケア児保育支援事業の実施、子育て家庭が気軽に相談できる環境づくりの推進など成果が上がっている。
- ・ 対面での訪問やイベントを行う取組についても、感染症対策を行い、オンラインツール等を活用しながら事業を推進し、必要な支援等を行うことができています。
- ・ 計画全体の進捗状況を分かりやすくお知らせするための指標についても、保育所等及び学童クラブ事業における年度当初待機児童ゼロの継続（それぞれ10年、12年連続）など、概ね堅調に推移している。

2 施策・事務事業の実施状況

計画に掲げた210の施策について、全てが推進中となっている。

年度	施策数	進捗状況		
		完了	推進中	着手前
令和4	210	0	210	0

3 令和4年度における主な成果

(1) 不妊に係る支援の充実

一般不妊治療費等助成事業について、助成対象に保険適用となった人工授精、体外受精、顕微授精及び男性不妊治療、保険適用外の先進医療を追加した。

一般不妊治療 実績 60,506千円（助成件数1,687件）

(2) 保育所待機児童ゼロの継続

令和5年度当初時点で、10年連続となる保育所待機児童ゼロとともに、12年連続となる学童クラブ事業待機児童ゼロを達成

(3) 地域や民間団体による子ども食堂など子どもの居場所づくりの取組への支援

令和2年度から引き続き「子どもの居場所づくり「支援の輪」サポート事業」を実施した（令和4年度実績 相談件数：年間延べ700件）

(4) 医療的ケア児保育支援事業の実施

保育園において、受け入れ施設の拡充に努め、公民合わせて11施設30名（市営：2施設3名、民営：9施設27名）、私立幼稚園も含めると、14施設33名の受け入れを行った。

(5) 新しい教育内容に即した施設・設備充実等の推進

令和4年度は、GIGA スクール「充実期」と位置付け、GIGA 端末を授業や家庭学習等の様々な場面で日常的・主体的に活用した。校務面においても、アンケートや採点業務等で ICT を効果的に活用するなど、デジタル化を図った。

(6) 子育て家庭が気軽に相談できる環境づくりの推進

令和4年度に上京区の1か所でつどいの広場（京都市子育て支援活動いきいきセンター）を新たに実施し、身近な地域における居場所づくりの促進により、気軽に相談できる環境を整えるとともに、支援者が必要に応じて情報提供や助言を行った。

(7) 生活困窮者に対する自立相談支援

相談専用ダイヤルを設置し、専任の相談支援員が生活困窮者からの相談に早期かつ包括的に応ずる生活困窮者自立相談支援機関として、支援に取り組んでいる。

令和4年度は、相談支援員を1名増員し、6名体制（令和4年8月から更に1名増員し、7名体制）とすることで、生活にお困りの方の相談・支援にしっかりと対応できる体制を確保した。（令和4年度 新規相談受付件数：715件）

(8) 子ども虐待防止アクティブチーム等による総合的かつ系統的な対応

児童相談所の体制強化を図るため、虐待を受けた児童の心理判定等を行う児童心理司を2名増配置するとともに、国が開発したSNS相談システム「親子のための相談LINE」を活用し、子育てや親子間の悩みごと等の相談を受け付けるため、3名（児童福祉司2名を含む）の増配置を行った。

(9) 「切れ目ない支援」の実現に向けたひきこもり支援の充実

各区役所・支所保健福祉センターを中核とした全年齢対象の支援体制を構築し、各支援機関との協働により、支援の受け手を中心とした包括的な寄り添い支援を推進。

（令和4年度 「よりそい・つなぐ」相談窓口の相談件数：417件）

4 計画の進捗状況を示す指標

項目	計画最終年度 までの目標値	現況値 (令和3年度)	令和4年度 実績値
①妊娠11週以下での妊娠の届出率 【安心して妊娠・出産できる環境】	100%	95.9%	95.4%
②保育所等における年度当初待機児童数 【保育を利用しやすいと実感できる環境】	ゼロの 継続	ゼロ※1	ゼロ※1
③学童クラブ事業における年度当初待機児童数 【放課後における健やかな育ち】	ゼロの 継続	ゼロ※1	ゼロ※1
④放課後まなび教室希望児童の登録 【安心して自主的な学びなどができる環境】	100%の 維持	100%※2	100%※2
⑤青少年が参画している附属機関等の割合 【若者の社会参加】	50%	53.6%	53.5%
⑥京都市はぐくみアプリのダウンロード数 【必要な支援情報の到達】	53,000件 (運用開始以 降の合計数)	34,022件	37,598件
⑦児童生徒が在学中に茶道(小学校)、華道 (中学校)を体験した市立小・中学校の数 【京都ならではの文化力をいかした学び】	小：全校 中：全校	小：67/161校 中：36/72校	小：全校 中：全校

※1 令和5年度当初

※2 新型コロナウイルス感染症の影響による未実施校を除く。

5 今後に向けた主な取組

(1) 子育て・教育環境の充実及び情報発信

全ての子どもたちが健やかにはぐくむため、計画に掲げた施策・事業について、引き続き、着実に推進する必要がある。

令和6年1月には、新たな子育て支援ポータルサイトのリリースを予定しており、施策の効果的な発信のほか、若者・子育て世代が「京都で子育てしたい」と感じていただけるよう京都の子育て・教育環境の魅力を発信していく。

(2) 子どもの意見を尊重し、反映する仕組みづくり

こども基本法や国において策定予定のこども大綱、京都府において策定予定の都道府県こども計画の内容等を踏まえ、本審議会での意見や国の例示する意見聴取方法を参考にしながら、子ども・若者の意見反映の取組を検討・推進する。